

麦類赤かび病の防除の徹底について

本年1～2月の気温は概ね平年より高く、このため麦類の生育が全般的に平年よりも早く推移しています。オオムギの穂揃期は早いところでは4月の第3半旬になると予想されます。本病に対する薬剤散布は病原菌の感染前が効果的であり、感染後では効果が劣りますので、散布適期を逃さないよう万全を期して下さい。

本病は開花期（オオムギでは穂揃期）から乳熟期に感染し、開花期以降に曇雨天が続く場合には発生が助長されます。

(1) 薬剤による防除法

散布適期はオオムギでは穂揃期とその7～10日後、コムギでは開花最盛期頃（出穂7日後頃）とその7～10日後のそれぞれ2回であり、下表から薬剤を選定し、農薬使用基準に従って散布する。なお、トップジンM水和剤・粉剤及びベルコート水和剤は、出穂期以降は1回しか使用できないので注意する。また、1回目の散布を行っておらず、すでにオオムギの穂揃期、コムギの開花最盛期が過ぎている場合でも、できるだけ速やかに上記の間隔で2回の薬剤散布を行う。

(2) 防除上の参考事項

収穫後は速やかに乾燥する。

(3) 麦類赤かび病の防除薬剤

薬 剤 名	散布量・濃度	農薬使用基準	
		時 期	回 数
水和硫黄剤			
サルファーゾル	400倍	—	} 5回以内
コロナフロアブル	400倍	—	
イオウフロアブル	400～800倍	—	
トップジンM粉剤	4kg/10a	収穫14日前まで（小麦）	} 3回以内
		収穫30日前まで（小麦を除く麦類）	
トップジンM水和剤	1,000～1,500倍	収穫14日前まで（小麦）	} (出穂期以降は1回以内)
		収穫30日前まで（小麦を除く麦類）	
トリフミン水和剤	1,000～2,000倍	収穫14日前まで	} 3回以内
トリフミン乳剤	1,000倍	収穫3日前まで（小麦）	
ストロビーフロアブル	2,000～3,000倍	収穫14日前まで	3回以内
ベルコート水和剤	1,000～2,000倍	収穫21日前まで（小麦）	3回以内 (出穂期以降は1回以内)

なお、農薬の使用に当たっては農薬使用基準を厳守するとともに、ドリフトに注意するなど、安全・適正に使用するようお願いします。